

社会主義は理想なのか
 ～「共産党宣言」に学ぶ

第4回 関東ブロック

第1章 ブルジョアとプロレタリア 第3回

プロレタリア階級がその支配を打ち立てるときがきた

プロレタリアは

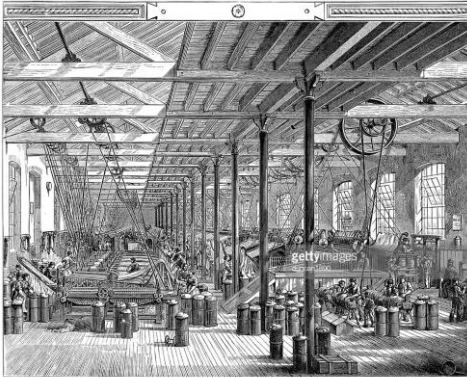
どのように発生したのか

司会 今月4月号で、第一章「ブルジョアとプロレタリア」の完結となりま
 す。今回の命題は「近代プロレタリア
 がどこから発生し、どのように発展し
 ていくのか」を明らかにします。まず、
 ブルジョアとプロレタリアの発生のお
 さらいをお願いします。
 YJII 第1回目（2月号）の時に、ブ
 ルジョアの発生を討論したので思い出
 して下さい。1492年コロンブスに
 よるアメリカ大陸の発見、1498年

バスコ・ダ・ガマによるインドへの航
 路発見などによる市場の拡大で、原産
 地イギリスの毛織物の需要が大きくな
 り羊毛価格が騰貴しました。イギリス
 の毛織物工業の発展が、イギリスの資
 本主義を切り開いたと、大塚久雄氏の
 『近代欧州経済史入門』を読めば一目
 瞭然に分かります。それによれば、
 14世紀まで遡り、富農（ヨーマン）
 の出現から始まるとあります。
 MII 何だよ。その「ヨーマン」という
 のは？ どうして出てきたのかね？
 YJII 1381年、ウオット・タイラ
 ーを先頭にしたイギリスで起きた大農

民一揆の中で、農奴は賦役労働から地
 代の金納化（それも長期低額の借地権
 で）に移行していました。その農奴の
 中から「荘園領主の裁判権から独立し、
 イギリス王権に直属する解放状態を勝
 ち取った農民層」が出てきます。そし
 て「歴史上その比をみないほど裕福で
 かつ不羈独立の精神に富み、勇敢、闊
 達、素朴、廉直」の徳性をもったイギ
 リス・ヨーマン層が成長したのです。
 このヨーマンが毛織物工業を営み、新
 大陸の発見から市場を拡大し、欧州各
 国の毛織物工業を凌駕していくんです。
 その後1649年、ヨーマンの首領ク

◆みんなの学習講座



産業革命期の工場

ロムウエルが指導する最初のブルジョア革命で資本主義に導いたのです。MⅡブルジョアの発生はわかったよ。肝心のプロレタリアはどこから出てきたんだ。

YⅡ15世紀以降、イギリスでは毛織物市場が拡大し、毛織物業そのものが国家の主力産業になっていきました。そこで領主・地主らは小作人が耕していた解放農地を強制的に非合法で取り

上げ、生け垣や塀で囲い込み、農民を追い出し、毛織物の原料となる羊の放牧を行いました。これを第1次エンクロージャー（囲い込み）と言います。土地を追われた農民はマニユファクチャーの賃金労働者となりました。MⅡしかし、エンクロージャーで追い出された農民が、熟練を要するマニユファクチャーの織機を動かす労働者にそう簡単に成れたのかな？

労働者は国家権力の

暴力でつくられた

KⅡそうですね。土地を追われた農民は、盗賊か浮浪者となり、特に浮浪者は、訓練所に送り込まれて工業労働に必要な技術を強制的に仕込まれたのです。しかし過酷労働から逃げ出せないよう、「血の法律」で裁きました。具体的には、「鞭打ちと焼きごての烙印で、奴隷化と死刑の処罰をもって臨

み、特に浮浪民のうち24歳以下の男子及び20歳以下の女子は、強制的に徒弟たらしめ、マニユファクチャーの労働に耐えうるように技術的、社会的訓練を施した」と言います。国家権力ので暴力的に賃金労働者に変えられたんです。この結果、生産手段を奪われた大量の労働者がマニユファクチャーで働かされることとなり、毛織物工業は急激にイギリス農村全土に及び産業の基軸となったわけです。

MⅡそうだよね。ブルジョアが国家権力を利用して暴力で安くこき使える賃金労働者をつくったんだ。

YⅡその後は、すでに学んだように、市場の拡大にマニユファクチャー生産では広がる需要に追い付かない。18世紀の後半から19世紀初頭の産業革命によって、工業生産に革命をもたらし、全産業の司令官、近代ブルジョア階級が誕生するとともに、工業生産を担うプロレタリア階級も増大したので

す。併せて、18世紀の第二次エンクロージャーにより、一部は農村で毛織物の労働者になり、その他は産業革命の進展とともに、都市部に勃興した工場労働者となつていったのです。没落した自営農民も、産業革命における労働者の主要な供給源だったので。

明治政府の殖産興業

富国強兵から労働者が発生する

司会II それでは日本の労働者はいつ頃から発生したのでしょうか。

SEEII 明治政府は、巨額の国費を使って富岡製糸工場とかいろんな官営工場を作りました。だがこれら官営工場は無償に近い金額でほとんどが民間に払い下げられたんだよ。そんな中で、三井だ、三菱だ、住友だ、安田とかが財閥となりブルジョア化していくわけだね。日本の資本主義が確固たるものとなるわけだ。三池炭鉱は国から払い下

げられたとあるけども、最初は藩宮の囚人労働で、その後は官営となり、囚人をどんどん連れてきて、ただでこき使ったことが三池の解脫塔に詳しく説明が書いてある。そして三井は巨万の富を築いたんだ。八幡製鉄所なんかも当初は官営だったんだからね。やはり日本も最初は、国家権力で労働者をつくりだしたんだと思うよ。

KAII 日本では、生糸産業が唯一の輸出産業となつたと言われている。女工哀史の話でわかるよね。小作農の娘が、貧困が理由で女郎屋に売られるか、絹織物を織らされるに織維工場へ行くかの時代で、最初に主たる工場労働者になったのが女性だったんだよ。

KUII KAさんが言うとおり、当時の日本の工業は生糸の織維工業に偏っていたから、女子工員が圧倒的に多かったんだね。それを輸出して欧州から軍艦や工作機械を買い、技術者を連れてきて殖産興業、富国強兵へとつながっ

ていくんだ。

YII 女子労働だけじゃないんだ。労働者としての源泉は、多くの下級武士にもあてはまるんだな。明治維新の廢藩置県で、下級武士の多くが失業しちゃうわけですよ。ある程度政府から少額の金禄公債の保証が出たんですけど、かなり上級の武士でないとならば元手に生活することは出来ないから、結局失業に追い込まれ、後に労働者になった人も随分いたんですね。

ラダイト運動から階級的な団結へ

司会II 日本における労働者の発生については、皆さんお分かりいただけただでしょうか。それでは、最初に戻って、労働者の運動はどう発展、推移したのかです。「宣言」はプロレタリア階級のさまざまな発展段階を経過すると述べ、その反抗を「ブルジョアの生産諸関係に向けるばかりでなく、生産用具

◆みんなの学習講座



三池炭鉱における採掘作業（明治時代）

そのものにも向ける。機械を打ちこわし工場を焼き払う」とあります。だがその間違ひも、「工業の発展と共にプロレタリア階級がますます大きな集団に寄せ集められ、自分自身の力を強く感じ」た時から、「ブルジョアに対抗する同盟を結び始め、かれらの労働賃金を維持するために、集会をもち、労働組合をつくって、不時の反抗のため

に食料を準備する」ことに変わります。それが「宣言」の言う「労働者が団結し、革命の準備をする」ことなのです。私が国鉄時代に闘った反合理化闘争は技術革新のコンピュータ導入に対して絶対反対で闘いましたが、これを「現代版ラダイト（打ちこわし）運動だ」と揶揄されたことがあります。合理化絶対反対は誤りなのでしょうか。YIIこの「宣言」で言っている、機械ぶち壊しは当時のイギリスで起こったのですが、それと今の反合理化闘争の機械導入阻止とは違うと思います。なんで反対するかといえば、機械が導入されれば人が減らされ、搾取がますます強化されます。資本家は機械導入で人を減らし、儲けを増やすということですから、それはやはり絶対反対が正しい選択です。

壊した。でもその機械を資本家はより優秀なものに入れ替えるわけでしょう。結局壊したことで弾圧され、逮捕され、解雇される。労働者の闘いは、機械打ち壊しでは、解決しないこと、そこに本当の敵が誰であるかを労働者が学び、団結で闘うことに発展するんですね。

政党は労働者自身の競争により繰り返し破壊される、しかし、そのたびに復活する

司会II「プロレタリアは階級に発展し、政党内組織され常にくりかえし破壊される。しかし、そのたびに復活する」とあります。その原因は「労働者自身のあいだの競争」だ、となつています。これはどういうことでしょうか。

KAI「やっぱり人よりいい暮らしをしたいとか、ちよつと得したいという気持というのは必ずあるような気がする。労働者同士で競争が必ず起きてしまう。

KUⅡ成果主義で労働者同士が競争するということではないですか。

司会Ⅱしかし、ここは政党といっています。この時代からいつて労働者間の競争とはなんだったんでしょうか。

YⅡこの当時のヨーロッパの情勢は1830年代のフランス、ルイ・フィリップの圧政と弾圧の中で、さまざまに社会主義運動があつて、ドイツからの亡命者の中で「亡命者同盟」が作られそれが分裂して、「ドイツ正義者同盟」という秘密結社が作られた。パリで武装蜂起したが弾圧され失敗してしまつた。同盟員もパリやドイツ、ロンドン、スイスへ逃れバラバラになつた。同盟のなかは思想的にはばらばらな状態になつていました。マルクスもまた、同盟内のワイトリング派と論争を起こし、ワイトリング派は影響力をなくします。結局「ドイツ正義者同盟」は破壊され「共産主義者同盟」と改称され、さらに大きな組織となるんだ。エンゲルス

もマルクスも共産主義者同盟に加盟するんだね。だからここでいう労働者間の競争とは、革命の方法を巡つての労働者政党間の分裂の歴史だと思つよ。

KUⅡ労働者の分裂の歴史ということでは現在の日本もそう。戦後社会党と総評が結成され総資本対総労働といわれた三池と安保闘争が闘われたけれども、1980年代後半は、総評・社会党が解体され労働組合の中に労資協調路線が浸透してしまつた。第二組合を作つて競争と分断を煽つて階級闘争が否定されてしまつた。労働者の意識も資本主義的常識が深まり、成果主義により労働者間で競争させられている。

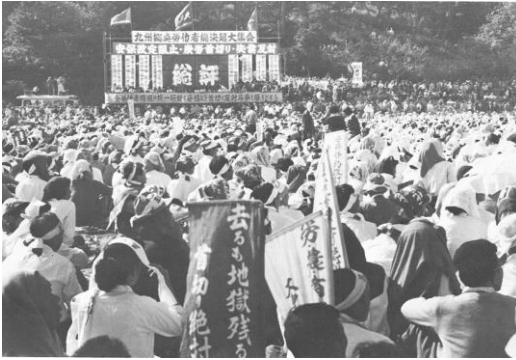
ブルジョア階級は、これ以上社会の支配階級としてとどまる能力をもたない

KAⅡ次に最後の方ですけれど、最新版だとP60の3行目の「貧窮は人口

や富よりもっと急速に発展する。：社会はもはやブルジョア階級のもとでは生存することができない、ブルジョア階級の生存はもはや社会と相容れないのである」と書いてあり、全くその通りだと思ひます。現在も労働者は、過労死するまで働かされ、若者は非正規で年収200万円以下。結婚もできない。私たちの厚生年金も削減されてきて、ますます労働者の貧窮化が進んでいて資本主義では生きていけないところまできていると思ひます。

でもブルジョア富裕層は増々富を増やし肥え太り大企業の内部留保は36兆円超（16年財務省統計）まで増え、格差はいっそう深まっています。まだまだ搾り取ろうとしています。なぜ、「宣言」で、ブルジョア階級は「自分の階級の生存条件を、規制的法則として社会に強制する能力を持たない」とあるのにブルジョア階級が依然として生存しつつつけられるのでしょうか。

◆みんなの学習講座



炭労反合闘争 — 三池闘争 (1959. 11. 8)

YJIIこのブルジョア階級の生存条件とは何かなんだ。マルクスは『資本論』の中で「生産と消費の矛盾」として取り上げている。すなわち「資本家は自分の雇用する労働者に対しては、搾取の対象としてその販売する労働力を極限まで安く買いたたく。そのことにより、生産された商品の購買者としての労働者の消費は制限され過剰生産

が発生する」、すなわち商品の買い手としての労働者と、労働力の売り手としての労働者との間に生じる矛盾である。そしてこの矛盾が恐慌を引き起こす基礎となっている」ことを解き明かしています。まさにブルジョア階級の生存条件は「搾取の諸条件」が良好に続くことであるが、同時に「搾取の諸条件」と「搾取実現の諸条件」が相矛盾するものとして資本主義の体内に宿っていることをここでは指摘しているのです。だからといって恐慌によって資本主義は自動崩壊しません。「労働者階級の革命的団結によってブルジョア階級の支配を打倒するときがきた」とマルクス・エンゲルスは説くのです。

資本主義は労働者の革命によってのみしか崩壊しない

司会IIそこでですね。第一章の最後のブルジョアは「何よりも、彼ら自身の墓

堀人を生産する」と言つて労働者の階級的任務を暗示していますがいかがでしょうか。

KUII簡単に言えば墓堀人とは、プロレタリアである。資本家を墓に放り込むのはプロレタリア階級しかない。そのプロレタリアをブルジョアがつくってきたが、そのプロレタリアを酷使すれば、抵抗し一企業から全国的に横の団結を深め、ブルジョアを倒し墓に放り込むために、革命を起こす。この革命によってのみブルジョア社会を打倒することができるということです。

しかし、革命的団結がなかなかできてこない。この主体形成が課題です。司会IIそうですね。第一章の結論「これらの没落とプロレタリア階級の勝利は、ともに不可避である」という法則に自信と確信が持てるかが今後の課題となりますね。

次回は第一章で議論したもののまとめを出していきたいと思えます。